

北陸新幹線延伸ルート決定について

北陸新幹線の延伸ルートについて、一定の方向性が示されたことは、長年停滞してきた議論を前進させるものとして受け止めている。全線開通は、災害時等におけるリダンダンシーの確保や国土強靱化の観点からも極めて重要であり、一日も早い実現に向けて議論を進めていただきたい。

一方、今回のルート再検証においても、整備効果や費用対効果の検証プロセスには不透明さが残っている。私はこれまで、舞鶴は安全保障上、また大陸との交易においても重要な港であり、造船業やクルーズ船寄港による観光産業など、今後の成長が期待される産業基盤を有することから、舞鶴ルートこそが京都のみならず、長期的な国益にかなう選択肢であると申し上げてきた。その考えに変わりはなく、今回の決定は残念である。

インフラの価値は短期的な採算だけで測ることはできず、後年になってその意義が評価されるケースも少なくない。かつて広域交通網の整備が遅れた結果、京都府北部は京都市内よりも阪神経済圏との結びつきを強めてきた経緯がある。同じ轍を踏まないためにも、企業活動の活性化、観光振興、雇用創出、国際競争力の向上、投資促進など、本事業が経済にもたらす効果を、定量的・定性的な両面から十分に検証すべきである。

また、地域・環境への影響については、課題や懸念への丁寧な対応とともに、本事業がもたらす経済的・社会的な便益も公平かつ客観的に評価し、その内容を広く共有していただきたい。環境や景観に対する意識の高い京都において、地域住民や事業者が納得できるよう、科学的根拠と客観的なデータに基づき、事業の効果と地域への影響の双方を分かりやすく示すことが不可欠である。京都、そして日本の持続的な発展に資するプロジェクトとなるよう、今後も丁寧かつ責任ある議論を求めたい。

令和8年7月15日

京都商工会議所
会頭 堀場 厚